



ロースバーク
日本新聞社
知事局
一月二十八日
木曜
第一三三三号

日本人の試作好成绩

四月間に約三十万弗

アリゾナ州ヒラリバーWRC所長L.H.ヘ
ネット発表に依れば一九四二年八月以降十
二月世目切の同センター日本人の農業
試作は記録破りの好成绩であった
約五百四十英町の生産は全所一萬四千人
の日本人の自給自足の外十五貨車と各他
地方日本人センターに向け輸出供給した
が野菜を以て合計二七二三六六の仙
と評價され其外にアルファルファ百二十六
噸時價一八九弗を生産した
右内譯の主なるものと抄記するは如左
キヤベチ(英加に就き二万六千斤)合計一
〇四噸、胡瓜(英加当り一萬二千五百斤
を五英加作って六万二千五百斤を得
レタス(英加当り七、四一〇斤)合計一〇、七四
四五〇斤、大根ラヂシユ等(英加当り三〇
五〇〇斤)合計一五、五〇〇斤を示し
た
尚ほ其他左の如き種目がある(斤標準)

ピーター三八〇〇〇、カワツ三二四〇〇
ニ葱三二四二四〇、ピース五、七三〇
ラヂシユ四七二〇〇、スピニチ二二二〇六
〇、スコシユ一四二〇〇、スイスチヤド
一〇、〇〇〇、ターニップス六〇〇、〇〇〇、タ
パー〇〇、〇〇〇、及フロンコリー三〇、五〇
〇等

ジラウ、デゴール会見

趣旨に対して賛意表示

UP通信員シモン、パリ報道によれば
ジラウとデゴールの両佛国将軍はアフリカ
最近のカサブランカ英米両巨頭会見を
機会として始めて会見を遂げたが軍事
上の何等の協商せず單に趣旨の一致を約
せしに止まると報じた

米空軍初の独逸領爆撃

米国空軍は廿七日始めて独逸領に入つて
着行艦基地を爆撃したか戦區並に戦
果に就いては発表なし又英國空軍は昨日
又も北佛沿岸独逸着行艦基地ロリエ
及びホードを空襲した

独露對戦の事情

独逸軍はスターリンを放棄せず敵
戦一層高潮に達し死傷者益増加した
又ヘロニス方面では雪を爲し行動不自由

にして赤露軍益優勢である既に赤露
軍に投降せし者數万に上り兵器捕
獲甚小たもの無数であるとモスカウ、
Pは報じた、ロストフ方面は独逸が益
防備を固くせるが爲か兩三日間何等の
異状なく唯百二十哩圈内に包圍されて
ある云

露の神秘深まる

スクリップ、ワート新聞
外事記者 W. シムス

華府廿七日、カサブランカに於ける
米大統領、英國首相の協商の結果
露西亜は依然として世界の最大の謎
である
露のスターリンは親切に誘引されたに
も拘はらず多忙の故を以て出席を断り
然らばカサブランカでなくしてカイロに
て會見せんと折返へし誘ひしも遂に未
らす其爲に当地では近く英首相がモス
コーへ乗込んでオニ協商するであらうと噂
す、スターリンは出席せしりレのみならず
副首相モロトフ其他何人をも送らす当地
では謎は益深からる或人の説明では
スターリンといふ男は元來國際協商を好
まず未だ二回もそんな会には出席したこ
とがない彼は独裁者で独りで決定し
之を部下に命令して実行せしめる云

又他の人の説明ではスターリンは戦争
については久し以前より計画を決定して
居り今更に英米の意見で其を左右され
ることを欲しない、元來露の好むこと
ろは新世界戦争、渦中に入らぬこと
であった渦中に入らずして他の諸国が戦
争で大怪我をしてヘトヘトになつてある
に露國は無傷で思ふところを
一兵とも動かさずして貫くといふ大方針
であった、其片鱗はポーランド、バルチック
諸國、ベッサラヒアの占領等を示され
てある

戦争に加入したるはヒトラーが一九四一
年に突然攻撃したから已むなくやつた
ことである、だから今も露國の戦争を
やつてゐるので何も英米の如く世界自
國のために戦つてゐるのではない云
(以上大意)

(郵便局長発表) インターの家族より
インター宛に発信する郵税も亦免除
されることとなつた詳細手續は各寮
長に就いて了知ありたし

倫敦廿一日AP日本軍事当局はヒルビ
島在留の猶太人全部に対して嚴重なる
警告をよめた旨の東京放送を本日ベル
リンから放送した

